



# 有明高専だより

第112号  
2004.3



特集 これからの有明高専.....	2
シリーズ 研究室訪問.....	4
シリーズ 人物 いま.....	5
シリーズ 卒業をひかえて.....	6
専攻科 ポスターセッション.....	8
第9回 高専シンポジウム.....	9
冬季球技大会／高専大会（ラグビー）.....	10

## 目次

シリーズ クラブ紹介.....	11
留学生送別会／寮生送別会.....	12
各種技能検定合格者.....	13
岱明寮だより.....	14
新学生会／クラブリーダー研修.....	15
第35回 定期演奏会／建築設計競技.....	16
編集後記.....	16

※本文中ににおいて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

数字は学年、英字は学科（M：機械工学科、E：電気工学科、I：電子情報工学科、C：物質工学科、A：建築学科、専：専攻科）です。

# Interview 特集 これからの有明高専

—変革期を迎えて3主事に訊く—

## 3主事座談会 平成16年2月9日

語り手：宮川 英明 教務主事、仁田原 元 学生主事、永守 知見 寮務主事

聞き手：塚本 俊介

平成16年度は、有明高専のこれまでの歴史の中で、最大の変革の年になるであろうといわれています。4月からは、全国55国立高専でひとつの独立行政法人に移行しますし、11月には、JABEE（日本技術者教育認定機構）の審査を受ける予定です。このような大変革を前に、長年学校運営に携わられてきた3主事の先生方に、有明高専のこれまでと将来について語っていただきました。



司会：本日は、ご多忙中にもかかわらずお集まりいただきありがとうございます。お集まりの主事の先生方に、これまでの本校の歴史を振り返りながら、これから有明高専はどのように歩むべきか、思いを語っていただきたいと思います。

はじめに、30年くらい前と現在の本校を比べて、感じられることを一言でお願いします。



宮川 英明 教務主事

**宮川** 社会が豊かになって、学生の興味を引くものが学校の外にあふれ、24時間営業のコンビニもある世の中です。しつかりした目標を持たない学生は、流れてしまうような難しい世の中になっています。

いると思います。30年前とは確かに学生気質は変わりはしましたが、読書感想文などを読むと、感受性が豊かな人も多く、そういう面では昔と変わらないと思います。世の中では指示待ちの若者が増えたともいわれていますが、有明高専の学生については、その割合は一般に比べるとかなり低いと思います。

**仁田原** 有明高専の学生がどのように変わったかというより、むしろ社会がどのように変わってきたかが大きいと思います。「生まれたときからすでに豊かな時代に生きる世代ですから、学生気質が変化しているのは本校だけでなく、世の中すべての学生に共通のことです。少子化社会に育ち、物を大切に扱わない学生も増えましたが、一般に比べて本校の学生だけが特に変わったとは思いません。

**永守** 寮生についての変化を述べますと、以前に比べ部屋にこもる寮生が増えたと思います。漫画読み、携帯・パソコンなどを扱う時間が増加し、みんなで交わる時間が少なくなっているのではないかと思います。寮の一番いいところは、縦横の交わりのなかでいろいろな事柄をお互いに吸収できることですから、その部屋こもりの傾向は、あまりいい傾向ではない気がします。

司会：有明高専は、創立40周年を迎えましたが、これまでの歴史の中でいろいろな伝統が培されてきました。

その中で、継続してほしい良い伝統、改善してほしい伝統を挙げていただきたいと思います。

**宮川** 一番感じている良い伝統は、「先輩、後輩のつながり」です。学校であるいは就職した後も社会の中で、卒業生は後輩諸君と密度の濃いつながりを持ってくれています。この伝統は素晴らしいと思います。

改善してほしいことは、予習復習の時間が極端に少ないことです。どうにかして勉強時間をもっと増やして実力をつけてほしいと思います。

司会：それは、昔から有明の伝統として自学時間が少ないということですか。

**宮川** いやそうではなく、年々少なくなってきていると感じています。ぜひ、もっと勉強に時間を当ててほしいものです。

**仁田原** 学生主事の立場から見たとき、体育祭・高専祭や球技大会など学生会行事を、学生会を中心とした実行委員会が企画・運営していることは、有明高専が他校に誇れる素晴らしい伝統であると思います。

反面、改善してほしいことも同じ学生会行事の中にあります。それは上級生に「自分たちが楽しければそれで良い」という気持ちが強すぎるように感じます。たとえば「新入生歓迎会」です。

新入生の気持ちに立ったやり方でなく、現在はどちらかといえば上級生が楽しんでいる企画になっています。新入生であったときの気持ちにたって企画をすれば、もっと素晴らしいものになると思います。体育祭・高専祭における団結力・行動力は素晴らしいと思うので、あと一步踏み込んで、周囲の人の気持ちを考えた企画・行動をすれば、さらに質の高い学生会活動が出来ると思います。

**永守** 寮における寮生会活動も学生会活動に似ており、すべての行事を自分たちで運営していくという伝統は素晴らしいと思います。

改善してほしいと思うことは、2点です。まず、締め



仁田原 元 学生主事

るところと緩めるところがあつていいとは思いますが、緩めるところで、T P O (time、place、occasion) をわきまえた行動をしてほしいということです。もうひとつは、そういう寮生会活動を自分の時間を使って皆のためにやっていこうという学生の数が次第に減ってきてるので、もっとボランティア精神を發揮して、皆のために活動して欲しいと思います。

**司会**：産業界は今、ながびく不況が続き、産業の空洞化（日本企業が外国に生産拠点を移し、国内の産業が衰退すること）が進んでいます。学生は卒業したあと、産業界へ出て行くわけですが、どのような心構えで出て行けば良いと思われますか。

**宮川**▶技術者の努力によって豊かな世の中になりましたが、一方では環境問題なども発生しており、これらを解決するのも技術者の使命だと思います。技術者の果たす役割はますます大きくなっています。その役割は私たちの生活を便利にするためにだけあるのではなく、人類社会全体を真の意味で豊かにすることにあります。そのような意味で、専門に関する勉強だけでなく、社会科学などを含めた幅広い勉強が必要となります。社会活動・クラブ活動などの体験や文化の異なる人々との交流などによって心の豊かな人格の涵養に努めることが重要で、広い視野から技術者の責任と役割を捉える柔軟性を培ってほしいと思います。産業の空洞化は生じていますが、むしろ自分たちが社会を支えていく、社会を変えていくのだというチャレンジ精神を持って望めば、きっと素晴らしい活躍が出来ると思います。それだけの力を發揮できる素質を、本校の卒業生は持ち合わせていると信じています。

**仁田原**わたしは、「勤勉性」という言葉を一番に挙げたい。社会に出て最終的に頼りに出来るのは自分の力です。それは、長い期間、地道に努力した結果で身につきます。学生の本分は勉強ですから、学生の間は勉強に「勤勉性」を發揮することで、社会に出たときに困らない自分が出来上がると思います。

また、学校の勉強のほかにも、たとえば英会話教室でも良いし青少年を対象にした市民サークルに参加してもいいと思います。学校外の人々との交流を図れば、自分が何を身につけたら良いかが見えてくるかもしれません。



永守 知見 寮務主事

ちですが、たとえば読書に熱中することを徹底したら、自分の目標としたいことがらが、きっと見えてくると思います。

**司会**：ところで、平成16年度は、独立行政法人化・J

A B E E 受審の年ですが、これらは有明高専にどのような変化をもたらすのでしょうか。また、われわれ教員や学生はどのような心構えが必要でしょうか。

**宮川**▶独法化も J A B E E も、学校が第三者に評価・認定されることになります。われわれ教員はP D C A (plan、do、check、action) のスパイラルアップを図って、教育の中身を充実させていかねばなりません。学生は、自分で考え自分で答えを出す自立した技術者になるために、学生時代からそのような勉強の仕方を実践していく必要があります。その意味では、われわれ教員は、teacherではなくcoacherであるべきではないかと思います。

**仁田原**▶これからは、学校も世の中に広く公開されていく時代になると思います。学生については「与えられるのが当然でなく、自ら努力して掴み取る」気構えが必要だし、教える教員側がまず率先してそのような気構えを持ち実践していくことが大切であると考えます。

**永守**▶独法化後でも、寮においては基本的には従来どおりでいきたいと思っています。しかし、何らかの変更の必要性が生じるかもしれませんので、学校としてはその都度最善の方法で対処していきたいと思います。

**司会**：最後になりますが、これから有明高専の発展のために、学生・教員へのエールをお願いします。

**宮川**▶教員は、学生の意欲を引き出す教育を工夫・実施し、学生は自ら課題を設定し、答えを導き出す勉強を心がけてほしい。「待っているのではなく自分で掴み取るチャレンジ精神」でがんばりましょう。

**仁田原**▶「学習とは本来努力を要するものだ」と思うし「夢・希望のないところに奇跡は起こらない」とも思っています。教員側も学生に夢を与える教育を実践するので、学生も教員に夢を与えるような努力を継続してほしい。その相乗効果が生まれたとき、素晴らしい有明高専が生まれると思います。

**永守**▶少子化の世の中です。魅力ある有明高専を学生・教員一丸となって築いていきましょう。同時に、遠方に住んでいる人が「有明高専に行ってみたい」と思うようなメッセージを、積極的に学外へ発信していきましょう。

**司会**：本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。この変革期をチャンスととらえ、みんなで努力すれば、ますます充実した有明高専になれるような気がしてきました。

ありがとうございました。



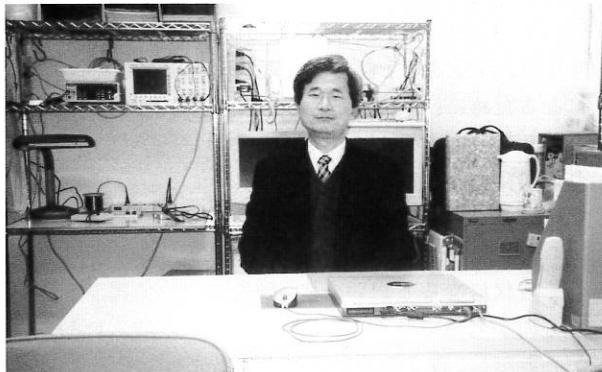
聞き手:塚本 俊介

# シリーズ

# 研究室訪問

今回は電気工学科の泉勝弘先生と建築学科の岩下勉先生の研究室を訪ね、お話を聞きました。

(聞き手 猿渡 真一)



電気工学科 泉 勝 弘 先生

現在の研究テーマをお聞かせ下さい。

私の主な研究テーマは「電力系統の高調波電流低減と力率制御」および「インバータ駆動電動機系の同定と制御」です。このどちらもDSP等のCPUでインバータを制御し必要な電流を流すというものです。前者は、皆さんが日常使用されている家電製品や工場などの工作機械から発生するひずみ波電流（電気の高学年で習います）が送電線に流れるのを抑えようとするものです。後者は、エアコンや工作機械のような電気による力を必要とする製品に使用されているモータ（電動機）を可変速でスムーズに動かし、省エネや性能向上を行うものです。

この研究を始めたきっかけは？

私は中学校時代からトランジスタや真空管（古い話ですが）を使った電子工学が好きだったので、大学の電気工学科へ進学しました。最終学年で卒業研究に着手する時に指導教官が研究されていたテーマが力率改善だったので、この延長で研究を行っています。卒業研究に着手したときは力率改善を電子回路を用いて行いました。その後、Z80（これも古いですが）等のプロセッサを使用するようになりました、現在に至っています。

研究をする上で心掛けておられる点は？

常に最新の情報を収集することと、常に改良を重ねることです。これらを常に意識し、実行することにより、新しいアイデアが生まれるもので。それから、時々これらが発散して、寄り道（研究上の）をしてしまうこともあります。

学生へ一言

何事にも恐れをなさず、突き進んで下さい。学生の間の勉強や卒業してからの仕事でも、難しいからと放棄しないでやり遂げて下さい。努力の量に応じて結果はついてくるものです。



建築学科 岩下 勉 先生

どんな研究を現在されていますか。

鉄骨建築物の柱と梁の溶接接合部の破壊について研究を行っていますが、鉄というとどんなイメージをお持ちでしょうか？「硬い」、「頑丈」などの言葉がでてきそうですが、鉄は本来やわらかいもので、「餅のように粘る」という表現を使うこともあります。そんな鉄でも条件が悪ければ（欠陥があつたり、材質が悪かったりなどなど）、ガラスのように脆い破壊「脆性破壊」を起こすのです。その脆性破壊の発生をうまく予測し、鉄骨建築物で発生し得る脆性破壊を防止したいと考えています。

この研究を始めたきっかけは？

大学4年生になると卒業研究のため研究室選びを行います。その際私は早くから動いて各先生の所を回ったのですが、迷いに迷い決断した時にはその研究室は一杯で入れなかつたのです。それで他の先生の所へ行ったのですが、すでに研究分担をしていました。そこで先生から「じゃあ、君はこの研究をしなさい」と決められたのが現在の研究です。もちろんこの研究で良かったと思っています。

研究で苦労されたことは？

英語ですね。昔のエピソードを学生に話すと笑われてしまうほどの英語力。それにも関わらず、研究の参考になるのは英語文献が多かったので非常に苦労しました。

これまでの研究を通して得られたことは？

当初は論文なんて書けるだろうかと不安もありましたが、とにかく継続して研究を行うことで一応の区切りを付け、博士論文を書くことができました。ですので「やれば何とかなる！」ということでしょうか。

永年勤続20年の方々にインタビューをしました。



物質工学科  
水室 昭三 先生

#### ◇20年間での一番の思い出

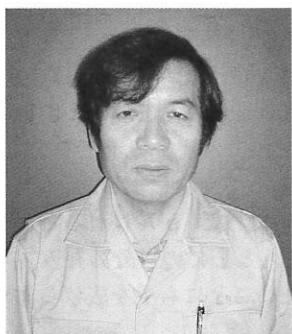
「工業化学科を物質工学科に改組できたこと」「西暦2000年度から実施する有明高専教育改革の方針をもとに本校の教育改革から校舎改修までできたこと」「4年生に卒業研究を全国で最初に導入できたこと」「テニス部の顧問をしているとき、学生が毎日の反省ノートを書いたことで全国大会において準優勝（団体戦）できたこと（個人戦での金メダルは数個獲得）と九州地区大会の第1日目の夜は1年間を反省して全員が毎年泣いたこと（泣かせたこと？）」など一番の思い出がいっぱいあります。

#### ◇学生に一言

学生諸君、「精神的に幼稚」「我慢できない」「すぐあきらめる」「授業中の私語や居眠りが多い」「知的好奇心、想像力、読書習慣、思考力などが低下している」「試験前の暗記型勉強で暗記的知識が多くて“なぜか”をじっくり考えない」などと言われています。大きな夢をもちましょう。それを実現するためには、まず自立することです。

#### ◇現在の研究

「有明海再生プロジェクト」を立ち上げることになりました。これには“産・官・学・民”的チームで取り組むことを考えています。特に、“学”はさまざまな専門の先生方と学生諸君との共同で高専間連携を実現させて行うつもりです。



教育研究技術支援センター  
木下 正作 技官

#### ◇20年間での一番の思い出

福祉機器開発に出逢えたこと。最初に開発した自走車（リキ太カー）の試運転で、動けたことの喜びを顔いっぱいに表した戸田リキ太君の表情が脳裏に焼きついて、今も忘れることができません。（福祉機器開発のきっかけを提供してくれた、M科卒業生の木村直子さんに感謝しています。）

#### ◇20年で自分が変わったところ

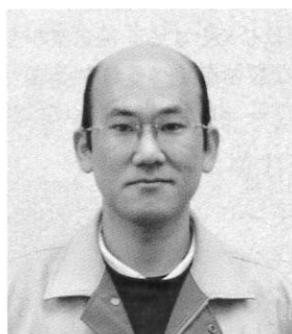
めがねが必要になったことと、昔のように徹夜ができなくなったことで体力の衰えを感じています。気持ちは20歳のままでですが……。

#### ◇モットー

「机上より、現場100回。また新しい発見が必ずある。」民間時代に技術スタッフとして仕事をしていた時から、問題点を正確に把握するには、現場へ足を運ぶことが大切だと考えています。

#### ◇学生に一言

挨拶、服装、整理整頓は人としての基本だと思います。社会人になるとそれがすべて評価されます。言い訳は通用しません。今一度自己点検をしてみて下さい。



教育研究技術支援センター  
森田 恵一 技官

#### ◇20年間での一番の思い出

全学科の学生と接する機会がある私にとって多くの学生との出会いが一番の思い出です。また、高専体育大会で九州各地や全国大会に行ったこと、学生の球技大会に参加しておとなげなく優勝してしまったことなども思い出深いです。

#### ◇20年前と今について

男子学生の平均身長は5cmぐらい大きくなっているのでは？  
20年前は私より背の高い学生は学年に5~6人ぐらいしかいなかつたのに今では……。  
それから女子学生がこんなに増えるとは予想もつきませんでした。

#### ◇学生に一言

多くの人と出会い、また関わり合うことにより学んだり、経験したことは私にとって一番の宝です。

みなさんも人との出会いを大切にしてください。

平成16年1月29日

卒業を目前に、高専生活での思い出や、これからのことについて語っていただきました。

**田嶋 大輔さん(5M)** 前学生会長、前剣道部主将。豊橋技科大へ進学予定。

**橋本 知栄さん(5E)** 前副寮長、前桜棟棟長。サン電工社へ就職予定。

**永松 潤さん(5I)** 前学科団長、前ソフトテニス部主将。NECフィールディングへ就職予定。

**平 有加利さん(5C)** 前学生会役員、バドミントン部。熊本大へ進学予定。

**廣畠 好章さん(5A)** 前弓道部主将。千葉大へ進学予定。

聞き手:石丸 智士



まず、高専生活で印象に残っていることをそれぞれ話していただきたいと思います。

**田嶋** 学生会活動とクラブ活動です。学生会長と剣道部の主将をしているときは大変でした。それに体育祭の準備が並行していた時期は切羽詰っていましたが、性格的にも追い込まれる事でやる気がおきる方だし、学生会の人たちがしっかりとサポートしてくれたので助かりました。それから、1年生の時は5年生がすごく大人に見えたんですよね。それで、いざ自分が5年生になった時、15歳から20歳までの幅広い年齢層をまとめた大変さがわかりました。大人に見えた当時の5年生も苦労したんだろうなと。学年によってそれぞれ考えていることも違うんですよね。特に今の4年生からは混合学級も経験して…やっぱり違うんですよね。

**橋本** 印象に残っているのは寮生活です。正直なところ、はやく寮をでたいと思っていたのに、結局、寮生役員にまでなりました。上級生になるにつれて、昔先輩から言われていたことを、そつくり下級生に対して言っていることに気づき驚いたこともあります。寮では学科をこえていろんな友達も増えたり、先輩、後輩とも仲良くなりました。そんな中で、耐えることや、楽しむことを知ったり、いろいろと学びました。それから棟長を経験して、下級生をどう指導していくか考えたり、いい勉強になりました。新入寮生は私たちと結構考え方方が違ってたんですね。

**永松** 最後の高専大会で全国大会へ進出できたことが一番印象に残っています。クラブ推薦1期生として受験し、入試の面接のときに部活と勉強を両立することを約束しました。なかなかうまくいかず、部活の活気のなさに2、3年生のときは練習に行かなかったりした時もありました。4年になってキャプテンに指名され、それから「自分が頑張らない」と思って続けてきた結果、最後の高専大会で全国大会へ行くことができたときはすごくうれしく思いました。それから学科団長も経験したのですが、選ばれたときはどうやってやつていこうかと心配したんですけど、何とかこなすことができました。まとめることの難しさを学びました。

**平** 私はこの5年間、いろんな面で全て両立できること、自分ではじめたことは最後までやり通すことができたということが一番大きかったです。

クラブでも、レギュラーになれたというときに怪我をして落ち込んだんですけども、ここまでできたらレギュラーじゃなくてもいいから最後までがんばろうと思ってがむしゃらにリハビリに励みました。最終的には

出ることができ、続けて良かったと思っています。



廣畠 好章さん(5A)

**廣畠** いろんな仲間と知り合うことができたなど感じています。弓道部、寮そしてクラス、それぞれの中いろいろな人たちと接し、たくさんの友人関係を築くことができました。中学生のときはあまり人と接するのが好きなほうじゃなかったけど、寮生活やクラブ活動を通して仲間づくりができるよい財産になりました。クラブでは主将を経験しましたが、みんな思っていることが違うので、その中でどうやってみんなの意見をすりあわせて、みんなが楽しく部活ができるかを考えていました。

卒業後の進路や抱負について話していただけますか。まず就職予定の橋本さんと永松さんお願ひします。

**橋本** 福岡のサン電工社に入社する予定です。実家から通勤できるものもあって受験しました。本当にやりたい仕事とは違っていたけど、がんばれると思っています。就職後は、社会人としての自分の在り方を考えながら、趣味ややりたいことにも手を広げられたらなあと思っています。

**永松** 5月中旬にNECフィールディングに決まりました。以前からカスタマーエンジニアになりたいと思っていたものもあって受験しました。入社したら、先輩方に負けないよう、いろいろな資格をとって会社に認めてもらえるようがんばりたいと思っています。

残りの方は進学ですね。

**田嶋** 進学については3年生くらいのときから考えていました。大学も迷ったのですが、豊橋技科大に決めました。愛知はトヨタをはじめとする一流企業が多く、そういう環境で色々な技術を学べるかなと思って。親元にいると甘えそうだし、九州を出たかったというのも理由の一つでした。

**平** 高専へ入学当初は進学しようと思ってました。でも進級するにつれ、就職もいかなと悩んで。5年になった頃はほぼ就職に傾いていました。それで、就職活動をしていくうちに自分自身のことを見直すようになり、このまますると意志も固



平 有加利さん(5C)

まってないままに就職していいものかと考えるようになつて。それまでいろんな事が忙しすぎて、ゆっくり自分の将来や夢なんかを考える時間がなく、その頃ようやく何かしたいんだろうと考えるようになりました。最終的には今就職するよりも、さらに勉強して、進みたい道を決めたほうがいいんじゃないかと思い進学を選びました。

**廣畠** 千葉大に進学する予定です。4年の時に先生にすすめられたこともあったのですが、まちづくりなんかに関する学科があり、そういうことをやりたいと思って選びました。

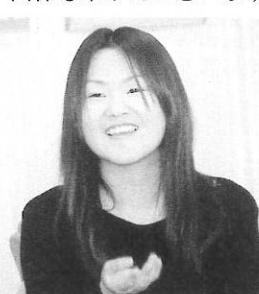
対談の最初に、「混合学級を経験して今の4年生以下は明らかに違うと感じている」という話がありましたが、混合学級についてどう思いますか。

**田嶋** 機械科はそもそも男子学生が多いのもあって、そういう影響が一番でてくるじゃないですか。明らかに違ってて、何か「ちゃらちゃら」した感じで。自分たちのクラスは、すごく「男くさい」のに、4年は香水のにおいなんかして…

一同 (笑)

僕は混合学級じゃなくてよかったなあと…

5年間ずっと一緒にメンバーで続けてきて、いい信頼関係も築けたと思います。



橋本 知栄さん(5E)

**橋本** 学科や寮を越えたいろんな知り合いができるのでいいのかなあととも思うけど、後輩からは、1年生のときのクラスがよかつたとか、5年間ずっと一緒にクラスのほうがいいとか、あまり良くないような話ばかり聞いてるので、どうなのかなと。

でも、アンケートによると、混合学級を経験して良かつたと思ってる学生はかなり多くいるんですよ。

**橋本** 私が聞いたのはごく一部の意見だったのかなあ。

一同 (笑)

**永松** 経験してみたかった。

**平** 混合学級もだけど、(4年生以下の)新カリキュラムで授業を受けてみたかったです。いろいろと大変になったとは聞くんですけど、教室で授業を聴くだけじゃなく、ものを作って動かしたり、他学科の勉強したり、そういうのを受けてみたかった。

工学基礎のことですね

**永松** 同感ですね。はやい内からそういう授業を体験していたら、専門を学ぶまでの意識も変わってきてたんじゃないかなと思います。

入学前に思っていた高専での勉強と、実際に入学してから学んできたことに差を感じましたか。自分の選んだ分野に満足していますか。

**橋本** 第1希望は電子情報工学科だったけど、第2希望の電気工学科に入りました。電気工学科でも情報処理関係の授業があって、今では苦手な科目です。結果的には電気工学科で良かったと思ってます。

**永松** ソフトウェア関係に興味があって、電子情報工学科を選びました。ところが実際には、ハードウェア

の勉強も結構多くて、もっとソフトウェア関係の勉強ができればなあと、高学年になるにつれて思うようになりました。

**田嶋** 家がバイク屋で、小さい頃からバイクをいじることが好きで、バイクや自動車の勉強ができると思って機械科に入りました。實際にはバイクにふれることもなく、3、4年生までは不満だったんですけど、今勉強しての熱や流体のことが基礎となってるし、そう考えると選んだことに今では満足しています。



田嶋 大輔さん(5M)

**廣畠** 最初は図面を描いたりしたかったので建築学科に入ったんですけど、構造の勉強とか、図面を描くだけじゃないんだなあと思って。だんだん違う方面に興味が移ってきました。

**平** 生物系の勉強がしたくて物質工学科に入りました。低学年の時は基礎科目ばかりで、生物コースを選択するまでは、入学前に思つてたのと違うなって感じました。

最後に後輩へ一言お願いします

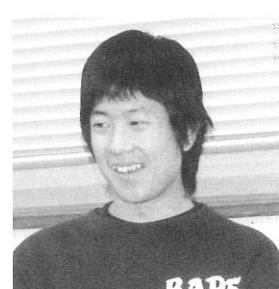
**平** 続けることが大切だと思います。結果はどうであれ、続けてきたということに対して自信を持つことが出来るし、思い出も残るので、何事も、はじめたことは是非続けてほしいと思います。

**橋本** 勉強をとことんがんばることも、興味をもっていることがあれば、それもできる環境だと思います。有意義に高専生活を送ってください。

**廣畠** 今、自分がおかれてる立場から逃げずにやっていってほしいと思います。

**田嶋** 色んな事に挑戦してもらいたいと思います。自分にとって学生会長や剣道部のキャプテンも、自身にとってチャレンジだったと思うし、それで、自分自身力もついたと思ってるので、色々な事にチャレンジしてほしい。

**永松** 今しかやれないこと、それが見つかると学生生活を有意義にすごすことができると思います。何か目標を持って、誰にも負けないものを一つでも多くつくってもらいたい。



永松 潤さん(5I)

今日はいろいろと話を聞かせていただいてありがとうございました。卒業して、それぞれがいろいろな道にすすむわけですが、これからも頑張ってくださいー

他にもたくさんのこと話をさせていただきましたが、紙面の関係上割愛させていただきました。

# 専攻科 ポスターセッション

1月15日(木)～17日(土) 総合研究棟1階共用実験研究室

1月15日(木)～17日(土)、本校総合研究棟1階共用実験研究室で、第2回 専攻科特別研究発表会(ポスターセッション)が行われました。

会場には、専攻科2年生約20名の2年間にわたる特別研究の成果が、それぞれ十数枚のポスターにまとめられ、パネル展示されました。また、学生による説明の時間も設けられており、来場者から質問を受けた学生は、丁寧に解説していました。

各学生の研究テーマは次の通りです。

## ○ 生産情報システム工学専攻

- 今井 雄輝 ポトルボーリング加工装置の研究開発  
大津山晃久 セミドライBTA方式深穴加工法の開発に関する基礎研究  
堤 一起 残留振動抑制を考慮したスタッカクレーンのリフトアップ法  
西村 仁孝 二相偏心二重管熱サイフォン内の流動に及ぼす加熱管傾斜角の影響  
井上 義章 パルスパワーを用いた排ガス処理  
中村 武 色素増感太陽電池電極材料の検討  
中村 勝 R T Linuxのパワーエレクトロニクス応用  
深町 尚貴 電圧共振形DC-DCコンバータの改善  
市本 祥平 M系列を利用した近赤外レーザレーダの検討  
中山 憲征 MPIによる並列計算システムの構築と評価  
安永 和広 JT Bを利用した理解コスト計量ツールの試作



## ○ 応用物質工学専攻

- 内村 亮一 マイクロバブルのエタノール水溶液に与える影響  
西田 訓宰 プラスチック溶射粒子の扁平凝固挙動に関する影響因子の検討  
広松 孝浩 機能性高分子のブレンドの研究  
水間 歩 セラミックスとプラスチックスの複合溶射皮膜に関する研究  
－流动床造粒法による複合粉末と溶射皮膜性能－

## ○ 建築学専攻

- 奥蘭加奈子 高齢者の住宅改修とそのシステム化に関する研究  
西田 朋美 めり込み機構に基づくRC造柱梁十字形接合部の強度評価法に関する研究  
前田 圭子 ストレス関連疾患病棟の空間構成に関する研究  
－不知火病院・海の病棟における病気回復と空間構成の相関について－



第9回

# 高専シンポジウム

1月15日(木)～17日(土) 本校8会場

1月17日(土)、本校において、第9回 高専シンポジウムが開催されました。

全国の高専・大学の教官・学生による約200件の研究等が、8会場に分かれて発表・質疑応答されました。

また、15:30からは、視聴覚室において、神戸市立高専の赤対秀明先生、宇部高専の深川勝之先生、徳山高専の大成博文先生による基調講演をもとに、「21世紀の地域交流のあり方を目指して」という議題で、総合討論会が行われました。

A会場 物質系1(環境系、資源系)



B会場 物質系2(有機化学系、無機化学系)



C会場 物質系3(無機化学系、有機化学系)



D会場 物質系4(物理化学系、化学工学系)



E会場 機械・電気・電子・情報系



G会場 専門教育・一般教育系、高専教育・創造教育系



H会場 地域・産学連携開運



# 冬季球技大会

平成15年12月16日(火)

体育局長 4M 三浦 俊亮

12月16日(火)、冬季球技大会が行われました。

冬季球技大会としては、久しぶりの晴天に恵まれ、クラス対抗で、ハンドボール、サッカー、バスケットボール、女子バスケットボール、卓球の5競技が行われました。

全クラス、各競技での優勝を目指して熱戦を繰り広げました。5年生にとって最後の球技大会でしたので下の結果のように、かなり気合いがはいっていたようです。皆さん本当に疲れさまでした。

最優秀クラス 5E		優秀クラス 5M・4C		
競 技	優 勝	準 優 勝	M V P	
ハンドボール	5E	4C	宮園 健志	
サッカー	5E	4E(a)	井上 広樹	
バスケットボール	5M	4M(a)	磯野 将文	
女子バスケットボール	3A(a)	4C(b)	有働未奈子	
卓 球	2年5組	2年1組	相浦 啓太	



# ラグビー高専大会

平成15年11月14日(金)～18日(火)

マネージャー 5E 西田 衣里

昨年の11月、九州地区ラグビーフットボール高専大会が大分で開催されました。

一回戦は北九州高専と対戦し、29対0と相手を無得点に抑え二回戦へと勝ち進みます。続く二回戦での対戦相手は、全国出場常連校の久留米高専です。全国出場権をかけ、練習の成果を出し切り戦いましたが、結果は46対0で敗れてしまいました。

今大会は5年生のプレイヤーがないチームだったので、プレイヤーにとって「最後の試合」と

いうわけではありませんでした。それにもかかわらずプレーヤーは全力を尽くして戦ったと思います。良かった事、悪かった事、この試合で感じ取った全ての事を、これから先に活かして練習に励んでほしいと思います。そしてこれからも、全国大会出場という一つの目標に向かって、「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」の精神で頑張り続けてほしいです。どうかこれからもラグビー部の応援をよろしくお願ひします。





## ラグビー部

4E 児玉 俊介

こんにちは、ラグビー部です。ラグビー部はプレイヤー25名、マネージャー5名で毎日活動しています。ラグビーという競技は、FW8名、BK7名からなる15名で行う紳士による野蛮なスポーツです。スポーツは筋書きのないドラマと言われますが、ラグビーの試合も観る人に様々な感情を呼び起こすはずです。刻一刻と変化する状況で、目の覚めるようなステップや鮮やかなトライといったプレー、大男に対して真っ向から向かっていく激しいタックル、骨のきしむ音が聞こえてくるようなスクラムといった他のボールゲームにはみられない激しい身体接触を目にすると、忘れかけていた闘争本能が呼び起こされます。あるいは、身を粉にしながらボールを生かす献身的なプレーやゴールラインを挟んだ攻防、そして終了間際の大逆転を観る時には感動に包まれます。また、ラグビーにはノーサイドの精神があり、試合が終わると敵、味方関係なくお互いを称え合います。今年の目標は九州を制覇し、全国大会に出場することです。昨年は成し得ることが出来ず、課題が山積みになりました。今年は昨年と同じチームで戦うことが出来るので頑張っていきたいです。ラグビーに少しでも興味がある方は是非いらして下さい。一緒にラグビーの素晴らしさを味わいましょう。また、応援よろしくお願いします。

## 卓球部

4E 二反田 裕樹

私達卓球部は、現在男子16名、女子9名の総勢25名で毎日練習に励んでいます。夏に行われた九州地区高専大会では、男子団体優勝、男子シングルス優勝、女子シングルス準優勝という素晴らしい結果を残すことができ、これで男子団体は九州高専大会三連覇を達成しました。その後の全国高専大会でも男子団体三位、女子シングルス準優勝という結果を残すことができました。しかし、三連覇達成に大きく貢献した五年生が引退し、男子団体のメンバーの大半が入れ替わるということになりました。そのため少しでも引退した五年生に近づけるように大山先生の指導のもと、部員全員で競い合いながら練習しています。数年前までは10人程度だった部員も女子部員の加入などもあり、人数が増え練習する場所が狭くなりました。決して良い練習環境ではありませんが、一人ひとりがしっかりと目標を持って日々努力しています。土曜日や日曜日なども、自分達の目標を達成するために休日返上で練習しており練習量では負けない自信があります。部員全員の目標としては高体連での県大会出場ということと、九州地区高専大会優勝四連覇達成ということがあります。これからもこれらの目標と、自分自身の目標を達成できるようにがんばっていきます。

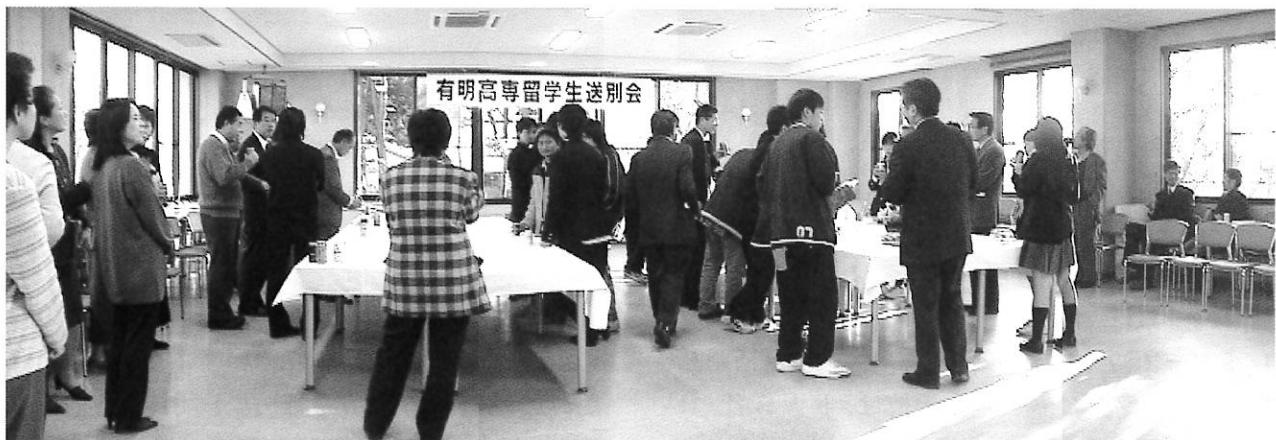
# \* \* \* \* 留学生送別会 \* \* \* \*



留学生送別会が2月18日(水)に修己館で行われました。尾崎校長先生の挨拶のあと、在校留学生代表のロン君(4C)が惜別の言葉を述べ、引き続き卒業予定のファンさん(5I)より卒業に向けてのスピーチをいただきました。寮母さんや友人達をはじめ多くの方々からいただいた優しさ、思いやりに対するお礼と感謝の気持ちが十分に伝わるスピーチをいただき

ました。また、ファンさんのチューターであり、親友でもある獅子原さん(5I)からのあいさつ、吹奏楽部による心温まる演奏、鶴田学生会長からの力強い門出の言葉、日本語講師の坂口先生からの励ましのメッセージなどがありました。大学進学予定のファンさんのより一層の活躍を期待いたします。

教務主事補 南 明宏



# \* \* \* \* 寮生送別会 \* \* \* \*

岱明寮では、卒寮を祝って去る2月14日(土)に恒例の送別行事がありました。

卒寮生は留学生も含めて20名(男子14、女子6)で、寮母さんや女子学生たちが前の晩から準備した餅米が、銀杏棟補食室で蒸し上がると、午後1時過ぎから卒寮生による岱明寮伝統の石臼による餅つきが始まりました。5年生にとっては前日までの学年末試験でのペンを杵に持ちかえて、餅つきを行いました。当日は九州北部地方に2年ぶりの「春一番」が吹き、4月並みの陽気となりました。陽気につられたせいか、退寮した5年生まで駆けつけて、一汗かきました。銀杏棟のひさしの下にうすを据え付け、下級生も手伝って、あっという間に紅白の餅がつき上がると、



つきたての餅をぜんざいや黄な粉餅にして、卒寮生より順に食べ、昼間の部は終了。夕方からは、多数の教職員の方々を招待して、寮食堂で予饌会が行われました。校長先生のあいさつに始まり、鐘ヶ江寮長からの送辞、本宮前寮長からの答辞のあと、卒寮生へ記念品が贈られました。続いて余興として、若葉棟、青葉棟、桜棟の寸劇、卒寮生によるスピーチを交えて進行し、岱明寮の15年度最後の行事「予饌会」も無事終了しました。

卒寮、おめでとうございます。卒寮生の皆様の今後のご健康とご活躍をお祈りします。

寮務主事 永守 知見

# 各種技能検定合格者

平成15年度 第2回

## 実用英語技能検定試験

準2級	1 C 藤田 恵 3 C 成清 可奈	1 A 須崎 鈴奈 3 C 濱田 綾	3 I 清島真理子	3 C 進藤 友紀 3 C 中村 仁美
-----	-----------------------	-----------------------	-----------	------------------------

平成15年度 第2回

## 工業英語能力検定試験

4級	2-1 高木佑一郎 2-3 渡邊 千華 1 M 白倉 翔太 1 M 秋富 博紀 1 E 古賀 直樹 1 I 桑原 崇彰 1 I 中村 浩之 1 I 平川 豊 1 C 小川 拓磨 1 C 早野 徹 1 A 飯田 典太 1 A 寺本 一章	2-2 古賀 章浩 1 M 荒川 義明 1 M 末永 真裕 1 E 今村 隼士 1 E 高木翔太郎 1 I 坂口 達也 1 I 永田亜依莉 1 I 藤城 香織 1 C 河野真喜子 1 C 平川 堅士 1 A 瓜生なつみ 1 A 中島 誠矢	2-2 高田 洋 1 M 木寺 政孝 1 M 友添 祐介 1 E 岩屋 文記 1 E 鶴 邦彦 1 I 下田 一景 1 I 西村 圭司 1 I 真弓 恵梨 1 C 河原 杏子 1 C 福吉万理恵 1 A 大川 博一 1 A 中村 仁美	2-3 井上倫加吏 1 M 境 達也 1 M 野口 雄大 1 E 緒方 和正 1 E 宮原 龍二 1 I 武田 淳也 1 I 二宮 啓聰 1 I 宮本沙也加 1 C 高木 洋介 1 C 馬渡 あい 1 A 蔵本 一生 1 A 服部 紗希	2-3 近藤 志穂 1 M 猿渡 隼斗 1 M 山田 隆太 1 E 古賀 友章 1 I 市川雄太朗 1 I 谷口恵利佳 1 I 一 真由子 1 I 吉武 真弥 1 C 西嶋 沙紀 1 C 米田 雄史 1 A 副島 裕介 1 A 村田 拓也
----	--	--	--	---	--

平成15年度 第2回

## 日本漢字能力検定試験

2級	3 I 川原 智史 4 I 稲田 航 4 A 溝上 敦子	3 I 西 俊哉 4 I 折小野 聖 4 A 山下 瞳	3 C 鳥巣 友希 4 I 古賀 紗子	3 A 有吉 利礼 4 I 中川 裕史	4 I 池田 哲大 4 C 松本 有希
準2級	1 M 武末 晋治 2-5 芦馬 慶美	2-1 井元 美衣 2-5 杉野 尚子	2-2 大田黒淳美 3 C 森田那央子	2-2 坂口 陶子 4 I 長塚 由紀	2-2 堤 理加

## ラジオ音響技能検定試験

3級	4 E 大坪俊比古 4 E 久保 祐貴 4 E 松下 和則 (科目合格: 4 E 小合瀬弘樹)
----	--

# 岱明寮だより

## 寮長あいさつ

4M 鐘ヶ江 亮輔



みなさん初めまして、新寮長の鐘ヶ江です。近年は前副寮長がそのまま寮長を引き継ぐという形が続いていましたが、今年はひきびきに副寮長以外のところ（若葉棟棟長と指導寮生をしていました）から寮長になりました。寮長となったからには、岱明寮の歴史に名を刻む

ような偉業を成し遂げたい、などと考えたりしております。

今年は「より楽しく、より住みよい岱明寮」を作っていくとともに、今まで少なからず距離のあった通学生との溝を埋めていきたいと思っています。通学生の皆さんに「寮っていいトコ」と思えるようなクリーンでオープンな寮を目指して寮生会の仲間たちとともに頑張っていきたいと思います。く寮関係のトラブル等でお困りの方、お気軽にこちらまでご連絡ください。親切丁寧にご相談に応じます。信頼とまごころの鐘ヶ江亮輔>

## 寮生冬季球技大会

体育局局長 坂井 正頌

1月17日（土）、恒例の寮生冬季球技大会が開催されました。今回、球技大会当日は晴れていたのですが、前日の雨によってグラウンドが使えませんでした。雨天時の球技となり、男子はドッジボール、女子はバドミントンを行いました。みんなはサッカーがしたかったようなので、雨になってとても残念だったと思います。（実際自分としてはサッカーよりドッジボールのほうが好きなのでうれしかったですね。）



競技のほうでは、ドッジボールは1年から5年まで各棟の威信をかけて優勝を争う姿に寮生の熱き情熱と団結力を、また自熱したバドミントンの試合に女子の力強さを感じました。優勝チームである銀杏棟 [KASEI] 、桜棟 [2年生] の方々おめでとうございます。そして、お忙しい中、参加していただいた教職員の皆様ありがとうございました。



## 寮生会役員

平成16年2月12日現在

寮長 4M 鐘ヶ江亮輔

副寮長 4C 金子 創太

副寮長 3A 有吉 利礼

副寮長 4A 山口 佳（桜棟長）

総務書記 4E 斎藤 浩司

涉外 4M 小川 正治

局名　局長

会計 3A 有吉 利礼

風紀 4C 古川 信也

整美 2C 川崎 栄一

体育 4C 坂井 正頌

厚生 4E 梶原 啓治

報道 3I 松永 剛幸

写真 4C 金子 創太

照明 4E 井手 秀一

娛樂 3A 有吉 利礼

副局長

4E 斎藤 浩司

2A 田中 孔之

2C 南 康洋

2M 鋤先 秀耶

2A 草場 紀法

2E 高田 俊輔

2C 的場 仁志

1A 長澤 一誠

4E 斎藤 浩司

棟長

銀杏棟長 5A 廣畠 好章

紅葉棟長 3M 荒牧 玄修

青葉棟長 2M 鋤先 秀耶

若葉棟長 4M 鐘ヶ江亮輔

桜棟長 4A 山口 佳

桜副棟長 3M 後藤沙衣子

3C 原 美沙希

指導寮生 4M 鐘ヶ江亮輔 4M 柿坂 悠太

4M 中村 剛士 4M 佐藤 輝明

桜棟指導寮生 4I 野崎 綾 4A 山口 佳

※男子棟長・指導寮生（若葉）は16年3月まで

# 新学生会



みなさん初めまして。新学生会長になりました4Mの鶴田弘之です。私自身この有明高専という学校が好きなので会長という役職に就けた事をとても嬉しく思っています。しかし、私自身の性格が優柔不断であり仕事をうまく割り振れるような人間ではない為、こんなことでは会長と名乗っていいのかとよく考えさせられます。それどころか、副会長を始めとする他の学生会役員の方がよほどしっかりしていると思います。言い換えてみれば、みんなのおかげで自分自身やっていけるのだと思います。しかし、このままではいけません。そうでなければこの学校の学生みんなに失礼だからです。つまり、支えられる立場から支える立場にならなければいけないのだという事だと思います。会長という役職は行事の挨拶や会議以外にはこれといってハッキリとした仕事は今のところありません。でも探せば常に何か仕事はあるものです。もちろん仕事に限ったことではありません。つまり、学校生活において改善が必要な点や学生みんなの声に耳を傾けるといった事です。そういう『気が付く人間』にならなければいけないと思います。それが会長にとって大事な要素の一つだと思うからです。このように現段階ではかなり理想論ばかり語ってしまう訳ですが、無理と思ったらそこまでです。理想論で終わらせない為にも頑張っていきますので今後ともよろしくお願いします。

学生会長 4M 鶴田 弘之

## 平成16年度 学生会役員

会長	4M	鶴田	弘之	2M	陶山	俊介
副会長	4C	金子	創太	3C	成清	可奈
体育	4M	三浦	俊亮	2I	佐々木	陽光
	3C	田島	圭祐	3C	中村	仁美
放送	4A	花田	由佳里	3C	湯川	明希奈
	3C	宮辺	純	3E	古賀	直也
文化	4C	堤	奈緒子	3E	長野	友彦
	3E	廣田	信介	3E	榮	寛子
	3C	永松	碧	2A	山川	達矢
風紀	4C	喜多	綾香	1A	関	勇輝
	3C	今村	洋輔	3E	星山	浩靖
会計	3I	田中	あゆみ	2M	佐藤	剛
				4M	安谷	泰亮
涉外	1C	大林	由季	3C	中島	梨江
報道	4C	境	舞	4M	井口	裕介
	3E	伊津野	大志	2C	荒木	美英
	1A	三宅	静香	4M	立山	正宗
整備	3C	鳥巣	友希	1A	松野	宙



## 体育系 クラブリーダー研修

平成15年12月19日(金)

12月19日(金)放課後、視聴覚教室で、平成15年度体育系クラブリーダー研修会が行われました。

これは、各クラブのリーダーを対象に、チームの指導方法や安全管理等に関する研修を行い、リーダーとしての自覚とクラブ活動の活性化を図ることを目的として、毎年行われているものです。今回も、15の体育系クラブの新キャプテン・副キャプテン30名、顧問24名が出席して研修を行いました。

仁田原学生主事の開会の挨拶に続き、本校弓道部技術コーチである福岡県弓道連盟理事の坂口高精先生(教士7段)に「日本の弓について」という演題で、「武道は礼に始まり、礼に終わる」などスポーツのルールやマナーの大切さなどを講演をしていただきました。また、国体等の主要大会での豊富な経験に基づいた試合に臨む心構えの話は、これから高専大会に向けてクラブを引っ張っていき、そして高専大会を実際に戦う学生にとって非常に有意義なものとなりました。

出席した新キャプテンや副キャプテンは、リーダーとして来年度のクラブの運営等に関して、気持ちを新たにした研修であったと思います。

学生主事補 村岡 良紀





## 第35回 吹奏楽部 定期演奏会

定期演奏会実行委員長 3I 大 藤 佳代

1月24日、無事に定期演奏会を終了することができました。本番を迎えるまでは、たくさんの苦労がありましたが、たくさんの皆様に見て聴いていただけたことで、つらかったことすべてが楽しさに変わりました。そして、今回で最後の演奏会となる5年生に「ありがとう」という言葉をかけてもらえたときには、がんばってよかったという今までに感じたことのない達成感で胸がいっぱいになりました。こんな思いを感じられたのも実行委員の仲間、先輩、後輩、先生方などたくさんの人々の助けがあったからこそだと感謝しています。この気持ちをいつまでも忘れずにいたいです。



## 平成15年度 建築設計競技

(社)福岡県建築士事務所協会主催の平成15年度建築設計競技の課題は、高校の部・専門学校の部とも「角地に建つ一戸建三世代住宅」で、夫婦、子供2人、老夫婦の6人が暮らすこと、バリアフリー化に対応することが条件として与えられていました。なお、構造は、高校の部が木造、専門学校の部が鉄筋コンクリート造でした。

設計競技には福岡県内から、高校の部に56作品、専門学校の部に169作品の応募がありました。高校の部では3Aの山口可菜さんが金賞を獲得し、他に佳作に4人、入選に3人、計8人が入賞しました。専門学校の部では4Aの溝上敦子さんの佳作が唯一の入賞でした。

全体としてはここ3~4年では少ない数の入賞でしたが、高校の部では団体賞として学校努力賞を獲

得することができました。なお、団体賞は平成9年度から連続で受賞しています。

(松岡 記)



3A山口可菜さんと作品

## 編集後記

3月は卒業式の季節。教員にとっては、収穫の秋を迎える農夫の喜びと同じような気持ちを味わえる季節である。

いつの頃だったか、クラスの首席で卒業していく留学生に尋ねたことがある。「素晴らしいね。言葉のハンディもある中で、かなり努力したのでしょうか?」その留学生は答えた。「わたしは勉強をするために日本に来ましたから、一生懸命勉強をしただけです。日本の学生はみんな、頭はいいけれど勉強に時間をかけない!」

“目から鱗が落ちる”とはこのことだと思った。われわれ日本人には、もはやハングリー精神はなくなってしまったのであろうか?

今年もベトナムからの留学生が、首席で卒業していく。

有明高専だより 第112号

平成16年3月1日発行

編集：有明高専広報委員会

発行：有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861 (学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>